

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー (1F)

「旅の図書館が誇る蔵書のすべて」
(2018年1月～3月)

移転・リニューアルの際には当財団の研究本部所有の図書や報告書の一体化、独自の図書分類の構築、専門性・希少性の高い蔵書の公開を実施。当館が40年かけて収集した蔵書の概要をご紹介します。



ガーデンラウンジ (1F)

「旅の図書館オススメの一冊」

最近刊行された本の中から、ニュースレターで紹介している本をはじめ当館のオススメ本を集めて展示しています。ちょっと古いけれど一読の価値がある本も！旅・観光への興味が深まります。



展示ウォール (B1F)

「人生に旅を！ 節目旅行ノススメ」
(2018年1月～3月)

機関誌『観光文化236号』(1/19発行)では、新婚旅行や卒業旅行をはじめとした節目旅行を国内旅行需要創出の観点から捉えています。特集テーマに関連した図書を紹介します。



当財団専門委員が選んだ
「わたしの一冊」
(2018年1月～3月)

機関誌『観光文化』でリレー紹介いただいている当財団専門委員「わたしの一冊」も11冊になりました。(継続展示中)



古書ギャラリー (1F)

「山岳風景の発見と近代登山の誕生」
—志賀重昂、ウェストンとその時代—
(2018年1月～3月)

「日本風景論」を記した志賀重昂、日本アルプスを世界に広めたウォルター・ウェストン、日本山岳会の生みの親・小島鳥水など、日本の近代登山の黎明期に大きな足跡を残した先駆者たちと彼らの著書(山岳文学)を紹介しながら、近代登山誕生の歴史をたどります。



Information

港区観光パンフレットコーナーを設置しました

当館1Fにて港区の観光情報をご提供するパンフレットコーナーを設置しました。

ご来館の際には、周辺のスポットにも足をのぼしてみるのもオススメ。パンフレットはご自由にお持ち帰りいただけます。

※平成29年度MINATOシティプロモーションクルー認定事業の一環で実施しています。



第12回「たびとしょCafe」を開催します

テーマ ツーリズム・リテラシーという考え方
～産官学の連携と新たな観光文化の創出へ～

ゲストスピーカー 山口 誠氏(獨協大学外国語学部交流文化学科 教授)

旅は誰もが自然にできるものではなく、その方法を意識的に学ぶ必要があります。今回は、こうしたツーリズム・リテラシーの考え方のエッセンスをお聞きしたうえで、旅行需要の創出や旅行事業の再活性化に向けた産官学連携のあり方と、新たな観光文化の創出について考えます。

- 日時: 2018年2月8日(木) 18:00～20:00
- 場所: (公財)日本交通公社 B1Fライブラリーホール
- 定員: 20名(先着順) ●参加費: 500円
- 申込方法: 以下サイトの申し込みフォームからお申し込みください。
<https://www.jtb.or.jp/library/event>

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 2

2018年1月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

旅の図書館リニューアルオープン1周年記念特別企画 第11回「たびとしょCafe」を開催しました (10/18)

テーマ 「人と地域、情報をつなげる図書館
～観光と図書館の新たな連携スタイルを考える～」
ゲストスピーカー 猪谷千香氏 (文筆家・ジャーナリスト)

ここ数年、「本」や「図書館」を取り巻く環境は大きく変わっています。猪谷氏からは、複合文化施設の中核に位置付けられた図書館や、観光案内機能を有する図書館、地域の産業を支援する図書館など、観光とも親和性の高い全国の図書館の取り組み事例をお話いただきました。

立ち寄り先としての魅力に加え、地域ならではの資料や情報の宝庫であるという図書館の存在は、地域の観光振興を考える上でとても重要です。観光と図書館の連携のあり方や具体的な連携策など、地域の図書館関係者や観光行政の皆さまとも意見交換をしてみたいと感じました。



『ツーリスト』復刻版が発刊されました！

ゆまに書房から、当財団の前身である「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」の機関誌『ツーリスト』の復刻版が発刊されました。監修・解説は、旅行案内書に精通する関西学院大学教授・荒山正彦氏で、当館は総監修として関わっています。「第1期 大正篇」(大正2年創刊号～大正15年第81号：全24巻+別巻1)が順次復刻される予定で、第1回配本は大正2年～大正6年までの全6巻です。

館内では、新たに加わった復刻版とともに、デジタルコレクション専用PCにて創刊号から終刊までご覧いただけます。わが国の観光の歴史をひもとく資料としてぜひご利用ください。



「第19回図書館総合展」に参加しました

2017年11月7日(火)～9日(木)の3日間、パシフィコ横浜を会場として開催された「第19回図書館総合展」には、今年も全国の図書館関係者、図書館関連メーカー、出版社などが集い、展示会及び多彩なプログラムからなるフォーラムが実施されました。

今年のポスターセッションには、全国の大学図書館や専門図書館など約80館とともに、当館も初めて参加し、スタッフ全員が交替で案内をしました。また当館も会員になっている専門図書館協会により設置された「専門図書館紹介コーナー」でも当館を紹介いただき、多くの来場者に当館を知っていただく良い機会となりました。



check/

『ツーリスト』概要 (復刻版案内パンフレットより)

1912年に鉄道院協力のもと「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」が創設される。外客誘致機関として発足したビューローは国内外問わず様々な媒体をとおして日本のイメージを発信する。ビューローはその事業進展を図ることを目的として、1913(大正2)年に機関誌『ツーリスト』を創刊。グラフィック・デザイナー杉浦非水の図案を表紙に採用し、広く国内外に配布された。和文欄と英文欄があり、和文は日本人国内旅行案内、英文は外国人観光客向けであり、外国人に向けての日本の旅行案内である。

旅の図書館オススの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します！



1 地域おこしに役立つ! みんなでつくるフェノロジーカレンダー

日本エコツーリズム協会 フェノロジーカレンダー研究会著 旬報社 2018年1月 A4判 127頁

地域の自然と人の営みを表した生活季節暦(フェノロジーカレンダー)は、自分の住んでいる土地とその特色を理解することにつながる。まちづくりに取り組む人々や学生、観光ガイドにとって役立つ公式マニュアル本。

2 集落の教え100

原広司著 彰国社 2017年9月 四六判 255頁

建築家・原広司が世界の集落調査をとおして受けた空間デザインに関する教え100フレーズ。初版(第1刷)から20年を経た今でも、その言葉は創作に関わるすべての人に多くの刺激を与えてくれる。

※当財団機関誌「観光文化236号」に紹介した
東京大学大学院教授・西村幸夫氏(当財団評議員・専門委員)が選ぶ「わたしの一冊」

3 フラノマルシェはまちをどう変えたか 「まちの滞留拠点」が高める地域内経済循環

石原武政・加藤司ほか著 学芸出版社 2017年10月 A5判 184頁

中心市街地の活性化は、もはや地方都市そのものの衰退の問題として向き合わなければならない時代。まちなかへの来訪者数を年間6万人から120万人に拡大し大きな経済効果を生み出している富良野市の事例に学ぶことは多い。

4 風景にさわる ランドスケープデザインの思考法

長谷川浩己著 丸善出版 2017年9月 A5判 142頁

単なる風景デザインの技術書ではない。日本屈指のランドスケープデザイナーの思考が、豊富な写真や言葉とともに凝縮した一冊。建築、まちづくり、デザイン、コミュニティ、ものづくり、ことづくりに関わるすべての人にとって必読。

5 観光経済学の基礎講義

中平千彦・数田雅弘編著 九州大学出版会 2017年7月 A5判 352頁

観光とは何か、なぜ重要なのか?観光と経済の関係は?観光を今後も発展させるには?経済学の視点で観光を理解するための最適な入門書。

6 コトラーのマーケティング4.0スマートフォン時代の究極法則

フィリップ・コトラー、ヘルムフ・カルタジャヤほか著、恩蔵直人監訳・藤井清美訳 朝日新聞出版 2017年8月 四六判 272頁

「近代マーケティングの父」ともいわれるコトラー教授の最終講義。ベストセラーの前作「コトラーのマーケティング3.0」を進化させ、ビジネスに取り入れるための戦術を徹底解説。新しいトレンドにも対応。

7 淳子のでっぺん

唯川恵著 幻冬舎 2017年9月 四六判 435頁

世界で初めてエベレスト登山に成功した登山家・田部井淳子さんをモデルに女性登山家の一生を描いた長編小説。「淳子」の生き方に胸を打たれる。

※田部井さんには、亡くなる約1年前に当財団機関誌「観光文化226号」巻頭言を寄稿いただきました。こちらまでご一読ください。

8 帝都公園物語

梶原辰郎著 幻戯書房 2017年8月 B6判 222頁

都市で人が生きるためには、人の手で管理された緑の環境が必要である。日比谷公園、上野公園、新宿御苑、明治神宮外苑などはいかにして完成したのか。公園の誕生から見た日本の近代化をめぐる人びとの物語。

9 住み継がれる集落をつくる 交流・移住・通いで生き抜く地域

山崎義人・佐久間康富編著 学芸出版社 2017年8月 A5判 232頁

外部との交流や連携によって地域の暮らし、仕事、コミュニティ、歴史文化、風景を次世代に継承している各地の試みから、生き抜くための方策を探る。「住み継ぐ」ことの意味を考えさせられる一冊。

10 日本への遺言 地域再生の神様《豊重哲郎》が起した奇跡

出町譲著 幻冬舎 2017年5月 B6変 152頁

限界集落の限界を自力で乗り越えた小村の奇跡。「豊重哲郎さんのことば」には、地域リーダーとは何か?人を動かすとは?地域を動かすとは?どんな地域マネジメント論にもない「生きた言葉」があふれている。